

開催の趣旨

当財団では、環境問題研究助成の成果を広く社会に還元するため、ニッセイ財団助成研究ワークショップを毎年開催しています。

今年度のワークショップテーマは「里山の自然をまもり育てる」です。

最近里地・里山の有する多面的な価値や役割についての評価が高まってきております。しかし、その一方で薪炭林等として利用し、人が関わりを持つことで維持されていた里地・里山が、農業人口の減少、農産物の輸入自由化などによる農業の衰退のなかで、人々の関与が減少することにより、急速に変質してきていると言われております。

今回のワークショップでは「里地・里山などの二次的自然環境とその維持・保全」のテーマで当財団の特別研究助成を受けられました、2つの研究チームからその研究成果をご報告いただきます。

広木詔三名古屋大学教授を代表研究者とする研究チームからは「東海丘陵要素植物群を構成要素とする里山の保全」について、武内和彦東京大学教授を代表研究者とする研究チームからは「里地自然保全戦略の構築」についてご報告いただきます。

また、報告に続く総合討論では鷲谷いづみ東京大学教授にコーディネーターをお願いし、報告者と参加者の皆様とで今回のテーマについてご討論いただきます。

今回のワークショップの開催が、里地・里山の基礎的な生態的研究を更に深めるとともに、その現代的な意義を再認識し、里地・里山との新しい関わり方を考える契機となりますことを願っております。